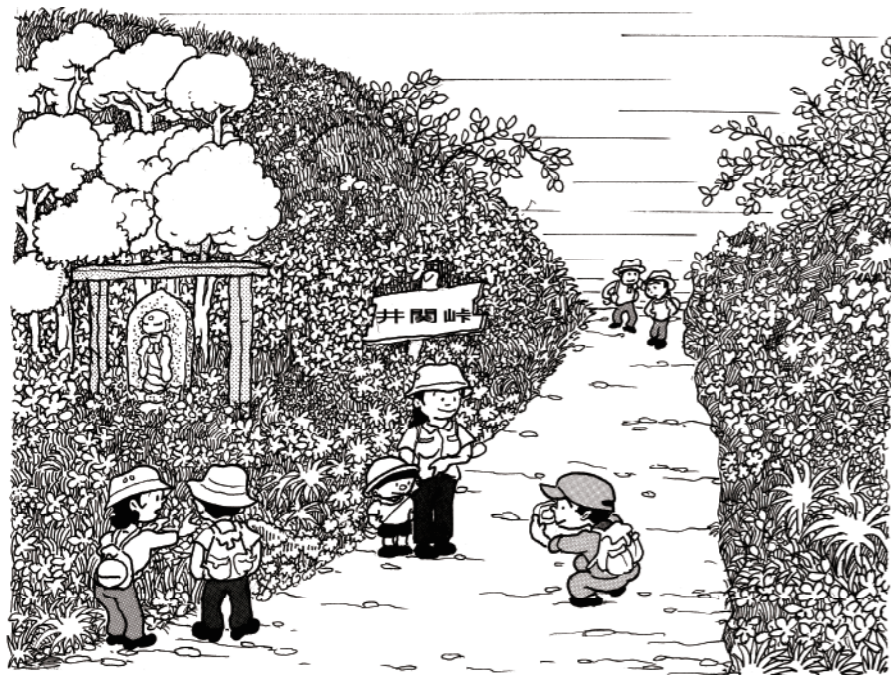


井関越街道を歩く

はんなんマップ 悠歩みち



企画・制作

まちおこし夢テラス

発行

阪南市教育委員会

井関越街道

井関越街道は浜(孝子越)街道の尾崎から下出、黒田、石田、桑畑を通り、井関峠を越えて和歌山市の六十谷まで至る道です。かつて鳥羽・伏見の戦(1868年)時、多くの会津藩兵が紀州藩をめざして通り抜けた街道です。街道沿いには鳥取池緑地桜の園など自然豊かな場所もあり、ハイキングを楽しむ人たちも多く訪れています。



波太神社

平安時代の『延喜式』に記されている「式内社」で、鳥取郷の総社です。本殿とその隣の末社三神社は桃山様式の華麗な建物で、国の重要文化財に指定されています。天正5(1577)年の織田信長による雑賀攻めではここに本陣を置いたと言われています。天正13(1585)年の豊臣秀吉による根来・雑賀攻め時に焼かれ、豊臣秀頼のときに修復されました。拝殿正面の燈籠は、片桐且元の奉納と伝えられています。他に三十六歌仙扁額(府指定文化財)が奉納されています。毎年10月にある祭礼では、宮入りした地車(やぐら)が勇壮に石段を駆け上がる様子を見ることができます。

イラスト：角田光和(阪南市在住)

この「はんなんマップ 悠歩みち」は、阪南市内で活動する市民団体や協力者の集まりである「阪南まちづくりネットワーク」の活動から生まれた「まちおこし夢テラス」が企画・制作し、教育委員会が発行したものです。阪南市に長く住みながら、このまちについて「知らないことが多い」「もっとこのまちを知りたい」「周囲の人にも知らせたい」という思いから、散策マップづくりを始めました。このマップを手には、昔のたたずまいが残る街道筋や街道脇の路地を歩き、また海岸や里山の自然に触れ、「新しい発見や出会い」を楽しんでいただきたいと思います。

このマップは文化庁の「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」を活用して作成しています。

お問い合わせは・・・阪南市教育委員会 生涯学習推進室
TEL072-471-5678 (内線2342) e-mail:s-gakusyuu@city.hannan.lg.jp

井関越街道付近のみどころ

鳥取ダム 桑畑にある鳥取池は井関川上流をせき止め、昭和23(1948)年に建設されましたが、昭和27(1952)年7月の豪雨により決壊し、死者51名を含む多大な被害を出しました。その後、農業用ダムとして復旧工事が行われ、昭和33(1958)年に完成しました。その貯水量は33万トンで、今も田畑に水を供給しています。

蓮池 阪南市内では最大のため池。鎌倉時代初期に東大寺を再建した俊乗坊重源(1121~1206年)によって修築されたと伝えられています。池底から縄文時代草創期(約11,000年前)に作られた石器(有茎尖頭器)が発見されています。

首斬り地蔵 天正13(1585)年 豊臣秀吉が根来寺を攻めたとき、波有手(ぼうで)の道弘寺などの寺院が焼かれ、僧侶が殺害されました。村人たちはあまりの無惨さに、斬られた僧たちを手厚く葬り、冥福を祈ったと言い伝えられています。また秀吉は根来憎さから近辺にあった地蔵の首さえ斬り飛ばしたという言い伝えもあります。

瑞宝寺 延宝年間の初め(1675年)頃の創建と伝えられています。鉦講(かねこう)は法然上人の念仏講の一種で、その形態が昔のまま継承されていることから、阪南市指定無形民俗文化財に指定されています。また「聖観音菩薩立像」は、平安時代後期(11世紀後半)の作で、阪南市指定有形文化財に指定されています。

潮音寺 数多くの石造物があり、最も古い石仏は大永7(1527)年の地蔵で、他にも永禄5(1562)年の二体石仏などが残されています。また不食供養碑(ふじきくようひ 寛永・天保など)4基、庚申碑(こうしんひ)、青面金剛碑(しょうめんこんごうひ 寛永12(1635)年)、西国三十三カ所巡礼記念碑、一石五輪塔などもあります。

自然居士の大いちょう 自然田にイチヨウの大木があり、その傍らに自然居士を祀る祠があります。自然居士は半僧半俗の民間仏教唱導者で、謡曲「自然居士」の主人公はこの地の出身とする伝承があります。謡曲では両親の供養に供える小袖を求めするために人買い商人に身を売った少女を、自然居士が芸を演じて救うというあらすじです。

抜水 明治初年、鳥取中の根来紋次郎氏の考案した灌漑施設のことです。水利の不便な畑地に水を引き、農民の大なる感謝を得ました。抜水の仕組みは高い所に井戸を掘り、その水面以下の所からトンネルを掘って低地に水を導くと低地で水が自噴するというものです。近くに根来氏の遺徳を偲び農民が建てた「湧泉の碑」があります。

玉田山公園・玉田山古墳群 『日本書紀』には「垂仁天皇の皇子五十瓊敷入彦命(いにしきいりひこのみこと)が茅渟(ちぬ)の菟砥河上宮(うどわかかみのみや)で剣千口を作らせた」とあり、その宮がこの地とする伝承があり、天保4(1833)年に記念碑が建てられました。玉田山山腹と山麓には7世紀初頭に築造された2基の小古墳があります。1号墳は、直径12mの円墳で玄室(長さ2.9m、幅1.7m)と羨道(3.5m)を持ちます。金・銀の耳飾り、ガラスや琥珀の玉などの副葬品が出土しました。玉田山は公園として整備され、頂上からの展望が良く、関西国際空港、淡路、神戸などが見渡せます。